第 2018-25 号

恵みと真理のニュース

2018 年 6 月の四次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］

私に堅固な信仰を与えてくださり、夫と舅姑を救ってくださった神様に感謝と賛美を捧げます

私たちの家族は1993年ソウルからアンサンに引っ越しました。旦那は勤務していた会社を辞めてから揚げの店を運営しました。息子は6歳、娘は4歳で母の愛と面倒が必要な時期に私は夫を助けて夜遅くまで仕事をしました。そうするうちにある日、幼稚園に帰って来た息子が体が痛いと言いながらよく歩けなかったです。熱があって足に赤い蕁麻疹ができて夜中に急いで大学病院の応急室に連れて行きました。様々な検査をした医師は入院をしなければならないと言いました。次の日には息子の小便に血が出ました。息子が痛いので私の心もさらに痛くて心配になりました。
教会の執事である親戚のおばさんがこの話を聞いて病院に来て息子の癒しのため神様に祈ってくださいました。その後、おばさんは毎日のように病院に来て息子のため祈って下さり、私に信仰を回復して一緒に神様に祈ろうと勧めました。私は結婚する前、職場生活をしながらしばらく、おばさんと共に教会に行って青年部で奉仕もしました。職場の同僚達を伝道して共に礼拝をする生活をしました。しかし、イエス様を信じない家庭で嫁に行って教会に行かなくなりました。
1985年に結婚して舅と姑がお正月や１年４回、祭祀をして熱心に偶像崇拝をしました。神様は何よりも偶像崇拝を一番憎んで嫌いなことだと知っていながらも親孝行する心で 舅と姑の話に従いました。私が教会に通っていても真実にイエスキリストを信じなくて聖霊に生まれ変わってなかったです。おばさんから叱られても強く断らなくて婚家の慣習を従った私の姿を振り替えてみて恥ずかしく思いました。また、神様に赦しを求め神様に祈りました。その後、息子の健康が回復され退院しました。私たちの家庭は新しい家に引っ越しました。引っ越ししてから数日が経たないある日、夜遅くまで寝れなくて起きて窓の外を見たら教会の十字架の光が見えました。その瞬間、悔い改める祈りと私が教会にまた行くようにと、息子が完全に健康が回復するように助けてくださいと神様に祈りました。そして、驚くなことが起きました。恵みと真理教会に通う執事に出会ってその方をついて水曜礼拝に初めて参席しました。弱くて愚かな人生を神様が憐れんで下さり、私に許しと愛を与えてくださって主の懐に導いてくださいました。礼拝に参席して当会長の牧師の説教を聞くたびにアーメンと答えました。礼拝が終わると息子が先に教区室に入って“牧師、祈ってください。”と頼みました。すると牧師は息子がかわいくて私たちに祝福の祈りをしてくださいました。牧師の勧めで従順してすべての礼拝に参席して礼拝中心の生活をしました。区域長の職分を下さって“わたしを強めてくださる方のお陰で、わたしにはすべてが可能です。”（フィリピの信徒への手紙４：１３）御言葉を強く信じて感謝する心で受け入れました。
息子が小学校に通って健康になりました。しかし、経済的な苦難を経験して私は再び働くようになりました。そうすると礼拝がおろそかになりました。2007年に甲状腺癌の診断を受けました。今まで礼拝をおろそかにしたことと神様を委ねなくお金をもっと委ねたことを悟って悔い改めました。病気が治るように祈って、どんな状況でも神様を委ねる人生になり、舅と姑と家族を救ってくださいと切に祈りました。区域を仕えて礼拝中心の生活をしようと努力しました。神様の恵みで私は定期的な検査だけ信じるほど健康を回復しました。
2016年に母が病気になって私の家の近くの大学病院に入院させて私が介護をする中で天国に召されました。その時、教会で葬式をしてくださって礼拝を捧げる姿を見た舅と姑は感化と感動を受けて“あたしたちもキリスト教で葬式をしてほしいと意外な話をしました。私は舅姑と旦那を伝道する機会だと思いました。 聖霊様は“恐れることはない、わたしはあなたと共にいる神。たじろぐな、わたしはあなたの神。勢いを与えてあなたを助け／わたしの救いの右の手であなたを支える。”（イザヤ書41：10）という御言葉をくださいました。従って御言葉と聖霊様の権能に委ねて大胆に天国の福音を伝えました。舅姑はダンジン聖殿でイエス様を受け入れて祭祀など偶像崇拝を辞めました。
夫もイエス様を信じて救われた恵みに感謝をして教会に通うようになりました。御言葉の恵みを愛し、主日ことに党会長の牧師の説教を通して恵みを受けて喜んで神様に礼拝しています。私より息子と娘の信仰のため神様に祈ります。息子も成長して健康に仕事をしています。
私が堅固な信仰を持つように摂理してくださって救いと神霊な賜物によって主のことを幸せを享受するように導いて下さる神様に賛美します。息子を健康にして下さり、 舅姑と旦那を救ってくださった神様の恵みと愛に感謝ささげます。首区域長で任された職分に忠誠をつくします。相変わらず主の事に力を尽くして区域を仕え福音を伝えることに最善を尽くします。

［信仰コラム］

躓く人と躓かせる人

”しかし、私を信ずるこれらの小さい者のひとりをつまずかせる者は、大きなひきうすを首にかけられて海の深みに沈められる方が、その人の益になる。...”（マタイによる福音書18:6、7）

信仰生活は障害物の競争と似ています。油断すると転ばせる障害物が散在しています。”躓かせることがないことはない”とイエス様が言われました。信仰生活において躓かせることと他の人を躓かせること、この二つは悲劇の中で悲劇であります。
第一は、”躓かせることがないことはない”というイエス様の御言葉を留意すべきです。
誰でもイエスキリストを信じると罪の許しを受けて生まれ変わり、神様の子になります。しかし、誘惑と艱難、逼迫が免除されるのではありません。誰でも初めには信者達の集まりと活動に参加するとこの世の集まりと異なって常に愛と恵みが溢れると思います。しかし、間もなくそうではないということを経験します。他の信者の信者らしくない言行によって経験する心の苦痛が艱難と逼迫以上信仰に邪魔になり得ます。躓かせることがない所とはこの世のどこにもありません。従って、躓かせることがあることを見て異常に扱ったり驚かないようにしなければなりません。
第二は、躓かせる人に迫る災いがいかに大きくて恐ろしいかを知るべきです。躓かせることを受けて”私はそんなこんな理由によって信仰を捨てる。”あるいは”私は誰のせいでイエス様を信じるのを諦める。”という言葉は”私はある理由で、誰のせいで地獄に行くことにした。”という言葉と同じです。地獄が実在するということと地獄がいかに残酷な所だという事実を知らないからこのような考えと言葉を言うのです。どうしても地獄だけはいってはなりません。他の人から邪魔になる言葉と行動を接する時に躓く人はとても福のない人です。
第三は、他の人を躓かせる人と彼に迫る災いがいかに大きくて恐ろしいかを調べてみましょう。一、言行を節制なしにするため他の信者の心に傷付けて躓かせる人がいます。二、礼拝に良く参席して主の事に励む信者を迷惑して肉親の事に励むようにしてますます信仰が冷えて信仰生活を疎かにして躓かせる人がいます。三、異端の集団に接触するように信者を誘引して躓かせる人がいます。四、福音真理を歪曲、混雑に教えて信者を躓かせる指導者がいます。躓かせることは天国に行っている人を振り返えて地獄に行かせる相当な罪悪です。このような行為はサタンの僕そして、下手人の役割をすることです。万が一、他の人を躓かせたことがあったら徹底に悔い改めてその人が信仰を回復するよう精一杯手伝うべきです。
第四は、躓かせる原因が自分にある人々について調べてみます。
一、イエスキリストを人間以上には認定しようとしないので聖書に啓示されたイエスキリストが彼らには邪魔になります。神様の御言葉を人間の経験と知識で判断する者達は神様の御言葉が邪魔になって転んでしまいます。二、主観的な先入観念によって聖書に啓示なさった通りにこの世にお越しになったイエスキリストが彼らには邪魔になります。ユダヤ人達は律法と予言書を読みながらメジヤを待ち望みましたが、彼らの先入観念によってメジヤでおられるイエス様をむしろ排斥したようです。三、肉親の必要を充足するためのことが信仰の主な目的になるとイエスキリストによって躓きます。全てのことが自分が期待して求める通りになることを願ってイエス様を信じると、願わない試練と苦難に遭う時、疑いと落胆によって躓きます。
皆さんは、どんなことに遇っても躓かない堅固な信仰を持った聖徒になってください。そして躓いた人を起こしてあげることはあっても他の人を躓かせる行為は決してしない聖徒になるよう祝福します。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

礼拝の本質

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

クリスチャンの生とは礼拝の中心にならなければなりません、礼拝というのは聖徒たちが永遠に行う栄光な義務であり、祝福な特権です。したがって、クリスチャンは礼拝が何か、礼拝をどんなにささげるのが正しいかを知らなければなりません。
イエスが弟子たちと一緒にサマリアのスガの町に至りました。イエスが井戸に座った時に一人の サマリヤの女が 水をくみにきたので， イエスはこの 女に，「水を 飲ませて 下さい と 言われました。サマリヤの女はイエスとの対話を通じて、イエスが偉大な預言者と判断し、礼拝について聞きました
「わたしたちの 先祖は， この 山で 禮拜をしたのですが， あなたがたは 禮拜すべき 場所は， エルサレム にあると 言っています 」イエス は 女に 言われた， 「女よ， わたしの 言うことを 信じなさい． あなたがたが， この 山でも， また エルサレム でもない 所で， 父を 禮拜する 時が 來る」とイエスは言われました。「この山でもエルサレムでも関係なく、あなたがたが父に礼拝する時が来る。あなたがたは知らないことを礼拝するが、我々は知っている方に礼拝する時が来る、これは救いがユダヤ人から出るからである。しかし、真の礼拝者たちは霊とまことによって父を礼拝する時が来るのが、今はその時である。父は自分にこう礼拝する者たちを探しておられます。神は霊であるので、礼拝する者は、霊とまことによって礼拝しなければならない。」（ ヨハネによる福音書 4：21~24）
女が言った、「私はキリストと呼ばれるメシアが来られるということを知っている。主が来られれば、私たちにすべてのことを教えていただきます」としました。するとイエスは言われた。「あなたと言っている私がすぐに彼だ」その瞬間女は水の器を捨て町に入り、人々に自分がキリストに会ったという事実を知らせていました。イエスとサマリアの女の会話の中に礼拝が何かの重要な内容があります。したがって、今日は本文の言葉を中心にして礼拝の本質と意味について説明します

第一に、礼拝は、教会と聖徒の最も重要な使命であり、本分です。

教会の役割と使命は礼拝、伝道、教育、救済、奉仕、親睦などがあります。これらは、教会の存在理由と目的です。教会の本分です。伝道は教会が行うべきイエス様の地上命令です。イエスにお申し付けて言われた，**「全世界に 出て行って， すべての 造られたものに 福音を宣べ 傳えよ」（ マルコによる福音書 16:15）**しました。教育も、教会が行うべき重要な使命です。聖書を主教材にして教えます。救済も欠かせない教会の使命です。教会の使命の中もう一つは奉仕です。聖徒たちはいろいろの職分を受けて協力してお互いを助けることをします。また、他の教会の本分は交わりです。聖徒たちは主の中で交われます。
そして教会の最大の使命であり、本分は礼拝です。礼拝は、人間の存在の目的であり、理由です。アダムの堕落によって人間は、その本分を離脱しました。そして無神論者になったり、偶像崇拝者になってしまいました。それゆえ、人間は律法の呪いの下に置かれ、地獄の刑罰を免れることができなくなりました。しかし、神があなたの人生を愛しておられたので、救いの道を与えました。その道はイエス・キリストです。罪のない神のひとり子イエス様が人間の罪を代わりに担当して十字架につけられ死なれ墓から復活しました
そして誰でもイエス・キリストを自分の救い主として信じ受け入れさえすれば罪の赦して義されます。神の子どもになります。そして神を礼拝します。神を礼拝するのは、教会の存在理由であり、聖徒たちに一番の本分です。 **イザヤ書 43 章 21 節には「 この 民は， わが 譽を述べさせるために わたしが 自分のために 造ったものである」**と記録されています

第二に、礼拝する者が礼拝を通して追求して表現することが何なのかを見てみましょう。

旧約時代に人間が神と交通する方法は供物ささげていけにえの祭司と神の言葉を聞く二つとして行われました。そのために祭司と預言者がいました。新約時代の教会は、概して、公的な礼拝の順序が説教、賛美、祈り、献金、祝福の祈りがあります。聖なる儀式では、洗礼と聖餐があります。礼拝する者は、礼拝を通して追求して表現することができます。礼拝者は礼拝を通して神が行なわれたこととくださった恵みについて聞いて心に刻み信仰の深さをもよりになります。神が私たちを救うために行われたことについて教えて聞きながら、心の中に深く信仰で応えすることが礼拝です
礼拝する者は、礼拝を通して神への喜びと感謝を表現します。 **コロサイ人への手紙 3 章 16 節には「 詩とさんびと 靈の** 歌**とによって，**感謝**して 心から 神をほめたたえなさい」**としました。神は恵みと聖徒たちが将来享受する栄光を考えて中心から湧き出る感謝と喜びに賛美し、また供え物をささげします。礼拝するものは、礼拝を通して神の絶対主権を認めて、神の祝福と助けを求めています。礼拝は、救われた人さえがすることになります、救われた人だけができる極めて幸い義務であり、特権です

第三に、礼拝の本質を見てみましょう。

礼拝の本質が何かを知っていることは非常に重要です。イエスとサマリアの女との会話の中で礼拝の本質でないことが何かということが明らかに現れます。場所は礼拝の本質ではありません。イエスは答えるのは**「あなたがたは 禮拜すべき 場所は， エルサレム にあると 言っていますが あなたがたが， この 山でも， また エルサレム でもない 所で， 父を 禮拜する 時が 來る 」**としました。
礼拝の意識も礼拝の本質ではありません。イエスは続いて言うのを、「あなたがたは知らないことを礼拝するが、我々は知っている方に礼拝する、これは救いがユダヤ人から出るからである。」としました
サマリア人は、彼らが主を礼拝するとしているが、実際には、混雑した信仰、変質した信仰を持ちました。彼らが礼拝する神は、聖書に明らかに 啓示されている神ではありませんでした。異邦人の神の概念と混合されていました。聖書の啓示はユダヤ人を介して与えれ律法と預言書に予言されているメシアをつかわされる神の以外の神はいません。
神に対して知らないうちに行う礼拝の意識は礼拝することができません.
イエスは、いよいよ礼拝の本質を言われました。**「まことの 禮拜をする 者たちが， 靈とまことととをもって 父を 禮拜する 時が 來る． そうだ， 今きている． 父は， このような 禮拜をする 者たちを 求めておられるからである 神は 靈であるから， 禮拜をする 者も， 靈とまことととをもって 禮拜すべきである」**礼拝する者は、「神は霊である」という事実を知っている。この言葉には、自然界の物質や人の手で作られたとんなの形状を礼拝の対象として考えてはいけないという意味があります。人々は目に見える形状を崇拝する誘惑に陥りやすいです
礼拝する者は、「霊とまことによって礼拝しなければならない。」としました。礼拝の本質的な要件は、霊とまことです。神霊に礼拝するというの言葉は「霊で礼拝するという意味です。人は霊魂を持った存在に造られました。アダムの犯罪によって人の霊は死んだ状態になりました。肉体と精神が健康でも霊が死んだ状態にある場合、神を礼拝することはができません。イエス・キリストを信じて聖霊から新しく生まれ変わらなければなりません。 エペソ人への手紙 2 章では、**「 さてあなたがたは， 先には自分の 罪過と 罪とによって 死んでいた 者であって， しかるに，あわれみに 富む 神は，わたしたちを 愛して 下さったその 大きな愛をもって 罪過によって 死んでいたわたしたちを， キリスト と 共に 生かしあなたがたの 救われたのは， 恵みによるのである」（ エペソ人への手紙 2：1,4 、5）**としました。罪とどがで死んで状態であった霊がイエス・キリストを信じれば新しい命を得ます。聖霊で生まれ変わった霊を持っている人でなければ、神を礼拝することはできません「まことに礼拝せよ」という言葉は、「真理で礼拝せよ」という意味です。真理とは、神の言葉であり、また、イエス・キリストです。イエスは自ら言うのを
「眞理によって 彼らを 聖別して 下さい． あなたの 御言は 眞理であります」 （ **ヨハネによる福音書** 17:17）しました、また**「わたしは** 道**であり， 眞理であり， 命である． だれでもわたしによらないでは，父のみもとに行くことはできない」（ヨハネによる福音書 14：6）**としました。神が喜んで受ける礼拝は、聖書の言葉による礼拝　また、イエス・キリストにあっての礼拝です
簡単にまとめると、「霊とまことの礼拝とは、イエス・キリストを信じて新しく生まれ変わった霊の聖徒が、真理である聖書とイエス・キリストにあって、聖霊様の臨在と交わりによって礼拝する」このことができます。礼拝と関連して、人々を分類すると礼拝を捧げるのがない人がいます。偶像を礼拝する人がいます。貧しい人々です。無神論者と偶像崇拝者に福音を伝えて礼拝する人生になることは最高の善を行なうことです。礼拝の無知である人々に、霊とまことの礼拝をささげることができるよう導くことは非常に素晴らしいことです

愛する皆さんは、霊とまことの礼拝のために十分に整理された知識を持った人、礼拝が優先である人、礼拝生活の真に楽しさを知っている者として、多くの人々を、霊とまことの礼拝をささげように導くことをしてください。